

介護職員自己評価表

2020年9月10日

事業所名	介護老人保健施設 サンシャインきいれ
------	--------------------

	正社員	非常勤社員
介護支援専門員	2人	
社会福祉士	3人	
介護福祉士	16人	3人
看護師	6人	1人
PT・OT	6人	
実務者研修修了者	5人	2人

※複数資格者含む

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	備考
前回の課題に関する改善	14.9%	49.6%	28.9%	6.6%	

前回の改善計画	在宅復帰を目指す超強化型老健として、専門職間の連携を図りながら個別リハを中心に選択できるプログラムを目指した。リハビリスペースと居住スペースを区分し、日々の状態に合わせた支援を目指した。改善計画は、(1)転倒リスクの判別に中途覚醒数と睡眠効率を活用、(2)支援の質の検討に睡眠効率を活用、(3)日常状態に加えて呼吸及び心拍数を活用した健康状態の把握、とした。一部スタッフは関わりにストレスを感じている傾向が見られたことから、定期的に面談を行い、発生した課題をそのままにしない取組みを進めた。コミュニケーションスキルと認知症ケアは、回想療法の技能習得を通して高め、支援については、スタッフと主任と一緒に取り組んだ。面談だけでは分かり難い初期の課題を把握し、主任が中心となり改善に向けた取組みを行なうこととした。
前回の改善計画に対する取組み結果	リハビリスペースと居住スペースの区別は、新型コロナウイルス感染症対策として移動制限を行い実施できなかった。結果、対象者の活動量は現状維持に留まった。ご家族様には面会制限をお願いし、Webによる定期的なオンライン面会に切り替えた。虚弱な高齢者が多いことから、スタッフには、(1)県外移動、県外者との接触の禁止、(2)三時間おきの検温、(3)37.0度以上の出勤制限など厳格な対応をお願いした。このことがスタッフ負担になっていることは否めず、負担軽減は、主任及び上司が積極的に関わることで、小さな問題のうちに解決に繋ぐことに注力した。多職種がチームとなり関わったことでモチベーションは維持された。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)	よくできている(60以上)	なんとかできている(50~59)	あまりできていない(40~49)	ほとんどできていない(39以下)	合計
SECTION 1 対象者の接し方や態度について	13.6%	54.5%	27.3%	4.5%	100%
SECTION 2 仕事上の態度について	22.7%	40.9%	27.3%	9.1%	100%
SECTION 3 食事について	9.1%	54.5%	31.8%	4.5%	100%
SECTION 4 移乗や移動について	13.6%	63.6%	13.6%	9.1%	100%
SECTION 5 排泄について	18.2%	36.4%	36.4%	9.1%	100%
SECTION 6 入浴について	13.6%	40.9%	40.9%	4.5%	100%
SECTION 7 着替えや整容について	13.6%	54.5%	27.3%	4.5%	100%
SECTION 8 服薬について	22.7%	45.5%	22.7%	9.1%	100%
SECTION 9 意思疎通について	9.1%	59.1%	27.3%	4.5%	100%
SECTION 10 行動障害について	13.6%	59.1%	22.7%	4.5%	100%
SECTION 11 普通の生活やアクティビティについて	13.6%	36.4%	40.9%	9.1%	100%

自己評価及び改善が必要な事項	新型コロナウイルス感染症対策として、体調管理と接触制限を徹底しながら運営している。在宅復帰を目指した支援を進めているが、接触制限が在宅復帰を難しくした。対象者にソーシャルディスタンスの確保とフロアまたぎの移動制限をお願いしていることから、日常の活動量の確保に苦慮している。廊下を活用した歩行訓練や椅子に座って行う訓練等により筋力及び体力の維持を図っているものの、選択幅が狭まったことは否めない。それぞれのフロアで行えるプログラムを増やすことが課題となった。検温等により入所判断に日数を要するケースが増え、希望日の入所に応えられないことがあり改善が求められた。感染症対策として微細粒子を99.9%除去する空気清浄機を積極導入するなどの対応が、対象者やご家族だけでなく、スタッフの不安解消に繋がっている。スタッフの負担は大きく、個人的な都合に柔軟に対応した勤務としているが、長期戦で臨むことを余儀なくされていることから、さらなる負担軽減が求められている。
	主任 吉永正彦

外部評価者	新型コロナウイルス感染症対策では、ソーシャルディスタンスの確保が大切です。支援内容は感染症対策が実施され、介護職員は、県外移動禁止、検温と換気等が徹底されていました。ご家族の面会がとられ、入居者との面会を代替するオンラインサービスがしっかりと準備され、対応方針は共有されていました。高齢で虚弱な入居者が多くを占める老健の特性を考慮すると、やむを得ない対応であることは十分理解できます。ご家族は、概ね了承されているようでしたが、十分な説明と納得が求められる内容であることを踏まえて進めてください。一方、介護職員にかかる負担は決して小さくなく、家族を巻き込んだ感染症対策を介護職員ひとり一人が行っていました。勤務は、介護職員の都合に柔軟に対応した、ストレスを軽減させる配慮が随所に確認できました。感染症対策は高く評価できます。新型コロナウイルス感染症対策は今後も求められ、長期的な対応が問われる可能性があります。職員面談は高頻度で行われ、モチベーションは保たれていましたが、余裕のあるシフトとストレスの把握に努めてください。総合的な評価は、コロナ禍で支援が制限されるなか、ご利用者の状態に合わせた支援が検討され、チームワークが保たれていることが推察できました。これからも地域に根ざした事業所として頑張ってください。
	〒891-0141 鹿児島市谷山中央 5丁目37番11-302 特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所 社会福祉学博士 岩崎 房子